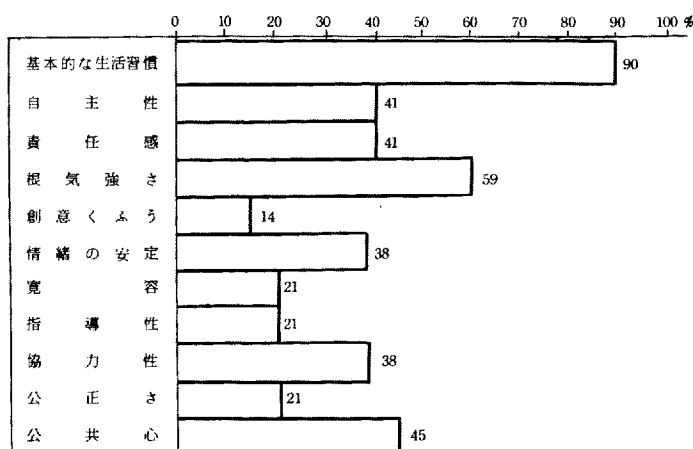


いることの反映であろう。

図 2-4-33 学習以外に関する目標

なお、図 2-4-33 の項目に分類できなかった目標の中で、多い順に示すと〈体力の増進〉、〈個性の伸長〉等であった。

ウ. 総じて目標表現こそ、各校のちがいがあったが、知・徳・体の各面が目標としてとりあげられていた。



② 教育目標の検討

学校の教育目標の設定に当たっては、元来、生徒の実

注：1. 「高等学校教育課調査」(昭51) による。

2. 割合 = (該当項目学校数) ÷ (標本校数) × 100

態を踏まえながら、地域社会の事情などを勘案して行うべきものであるが、昭和51年度の高等学校教育課調査によると、過去の10年間に、大幅に改善を行った学校10%、一部改訂を行った学校70%、改訂をしない学校20%となっている。

③ 教育目標の設定手順

教育目標の設定手順については、次の三つに分類することができる。

- ア. 設定に関する委員会ともいうべき組織を設けて、原案を作成し、職員会議を経て校長が決定する (約60%)。
- イ. 校長が原案を作成し、職員会議を経て校長が決定する (約30%)。
- ウ. 各教科、学年、校務分掌単位で検討を加え、委員会で集約した原案を職員会議にかけて決定している (約10%) (「高等学校教育課調査」(昭51))。

従って、各学校の教育目標の設定に当たっては、各学校において、妥当な設定手順を工夫し、年々検討を加え、その具体化に努め、教育諸計画に反映させていく努力が必要である。

(2) 教育課程

昭和48年度に現行の高等学校学習指導要領が実施されてから、すでに4年目に入り、各校の教育課程は、それぞれの実態に基づき種々改善が加えられ、次第に特徴ある独自なものに定着しつつある。

以下、「教科」と「各教科以外の教育活動」に分け、その推移と現状を展望することにする。

ア. 教科

本県においては、週当たりの時数は32時間としているので卒業までに修得する単位数は96単位である。1単位当たりの時数は35時間であるから、年間総履修時間の基準は1,120時間となるが、各校の履修状況を見ると、県内高校平均教科総履修時間は、第1学年1,147時間、第2学年1,141時間、第3学年1,122時間(昭和51年度)であって、第1・2学年は十分基準を充足しているが、第3学年においては、時間確保が困難である学校がみうけられる。

次に、教科ごとの履修についてみると、教科内容の精選、効果的な配列、構成を試みるほか、